

領域と分野	分野別目標
2-6 歯・口腔 の健康	歯・口腔の状態についてほぼ満足している者の割合を増やす

1
2 **【望ましい姿】**

3 都民の多くが、歯の喪失を抑制し、口腔ケア等の適切な歯科保健行動を身に
4 つけています。「8020運動」の推進により、歯と口腔の満足度が向上してい
5 ます。

6
7 **【これまでの主な取組】**

- 8 ○ 8020(80歳になっても自分の歯を20本以上保つ)の達成を目指して、
9 在宅歯科医療など、歯科口腔保健の推進に携わる人材に対する研修等を実
10 施
11 ○ 在宅歯科医療を実施する歯科医療機関向けに、設備整備費補助を実施
12 ○ 周術期における口腔ケアの重要性に鑑み、がん患者等の術前・術後にお
13 ける口腔ケアの普及を推進
14 ○ 地域で治療が困難な重度・難症例の心身障害児(者)を対象とした歯科
15 診療や、歯科医療従事者等への教育研修を実施
16 ○ 都保健所において、専門機関としての立場から、市町村の事業を支援す
17 るとともに、管内の保健医療情報の提供により、地域における歯と口腔の
18 健康づくりを推進
19 ○ 区市町村の取組に対して、包括補助による財政支援を実施

20
21 **【指標の達成状況及び評価】**

指 標	指標の 方向性	パ-ライツ値 (H21)	現状値 (H26)	増減率	評価
歯・口の状態についてほぼ満足 している人の割合(80歳以上)	増やす	57.9%	54.8%	▼ 5.4%	c

- 22
23 ○ 歯・口の状態についてほぼ満足している人の割合は、減少しています。
24 指標は悪化傾向にあることから、評価をcとしました。
- 25
26
27
28
29
30

1 【参考指標の数値の推移】

参考指標		パースイ値 (H21)	現状値 (H26)
「8020」の達成者の割合（80歳）		39.8%	54.7%
かかりつけ歯科医を持つ者の割合	3歳	45.0%	48.5%
	12歳	59.7%	57.6%
「8020」を知っている都民の割合 (20歳以上)		57.6%	57.1%
かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（40歳（35～44歳））		59.6%	71.9%

2

3

○ 「8020」の達成者の割合は、増加しています。

4

○ かかりつけ歯科医を持つ者の割合は、3歳では増加していますが、12歳ではほぼ横ばいです。

5

6

○ 「8020」を知っている都民の割合は、ほぼ横ばいです。

7

○ かかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合は、増加しています。

8

9

10

【現状と課題】

11

○ 歯と口腔の健康は、生活する上で基礎的かつ重要な役割を果たしており、心身の健康にも大きく寄与しています。

12

13

○ 「8020」の達成者（80歳）及びかかりつけ歯科医で定期健診又は予防処置を受けている者の割合（40歳（35-44歳））は、改善傾向にありますが、自身の歯と口の状態に満足している人の割合は僅かに減少しています。引き続き「8020」の実現を目指し、生涯にわたる歯と口腔の健康づくりを一層推進する必要があります。

14

15

16

17

18

○ 糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合（20歳以上）は増加傾向にあるものの、5割程度にとどまっています。歯と口の健康と全身の健康との関係について、一層の理解促進が必要です。＜参考図●＞

19

20

21

○ 高齢期においては、滑舌低下、食べこぼし、わずかなむせ、噛めない食品が増えるなどのささいな口腔機能の低下などに早めに気づき対応することが重要です。これらの様々な口の衰えは、身体の衰え（フレイル）と大きく関わっていることから、身体機能を維持し、食べる、話す、笑うといった口の機能を十分に使うことや、口腔ケアを続けることの重要性について、啓発していくことが必要です。

22

23

24

25

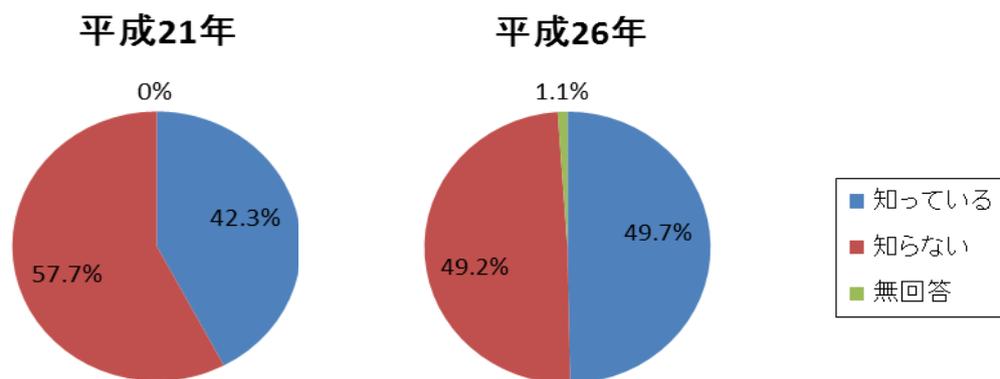
26

<糖尿病と歯周病の関係>

糖尿病と歯周病は共に代表的な生活習慣病で、生活習慣要因として食生活や喫煙に関与します。糖尿病は喫煙と並んで歯周病の二大危険因子であり、一方歯周病は三大合併症といわれる腎症・網膜症・神経症に次いで第6番目の糖尿病合併症でもあり、両者は密接な相互関係にあります。

資料:「厚生労働省 eヘルスネット」

<参考図●>糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合(東京都 20歳以上)



資料:「東京都歯科診療所患者調査」

【取組の方向性】

■ライフステージに応じた歯と口の健康づくり

全ての世代に対し、かかりつけ歯科医での定期的な歯科健診や予防処置の意義等について普及啓発するとともに、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期といったライフステージの特徴に応じた歯と口の健康づくりの大切さについて普及啓発を行います。高齢期に向けては、加齢や疾病に伴う口腔機能の低下や誤嚥性肺炎のリスクを予防するために大切な口腔ケアの知識や定期的な歯科健診の必要性を普及啓発し、生涯を通じて食事や会話を楽しむことができる歯と口の機能維持を支援します。

また、成人期に向けては、糖尿病や喫煙、心疾患、脳梗塞、早産など全身の健康と歯周病との深い関わりについて都民の認知度を高め、都民自らが口腔ケア等に取り組むよう、普及啓発を進めていきます。

■かかりつけ歯科医での予防管理の定着

かかりつけ歯科医の機能を正しく理解し、生涯を通じて自ら口腔ケアに取り組むとともに、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受診し、う蝕、歯周病、歯の喪失等の予防処置を受けるよう啓発していきます。

1 ■関連計画との整合性

2 「東京都歯科保健推進計画」とも整合性を図り、都民の健康を増進してい
3 きます。

4

5 【最終評価に向けた目標・指標の見直し】

6 ○ 平成30年3月に策定された「東京都歯科保健推進計画」との整合性を図
7 るため、分野別目標、指標、参考指標の全てを変更します。

8

9 (見直し後の分野別目標)

分野別目標
<u>「8020」の達成者の割合（75-84歳）を増やす</u>

10

11 (見直し後の指標)

指標	指標の方向性	ハ-スライ値(H21)	現状値(H26)
<u>「8020」の達成者の割合（75-84歳）</u>	増やす	50.7%	55.5%

12

13 (見直し後の参考指標)

参考指標		ハ-スライ値	現状値
<u>むし歯（う蝕）ない者の割合</u>	3歳	83.7% (H21)	88.5% (H27)
	12歳	53.5% (H21)	66.4% (H28)
<u>喪失歯のない者の割合（35-44歳）</u>		54.9% (H21)	63.6% (H26)
<u>24歯以上ある者の割合（55-64歳）</u>		63.4% (H21)	70.0% (H26)

14

15

16